

9月9日にサイン会開催!  
HMV&BOOKS SHIBUYA 19時〜

NHK大河ドラマ「いだてん」完全シナリオ集  
宮藤官九郎・著

第1部



定価(本体2200円+税) 文藝春秋刊

2019年9月5日発売

四六版ソフトカバー576頁

定価 2200円+税

宮藤官九郎(くどう・かんくろう)

1970年、宮城県出身。脚本家、監督、俳優、ミュージシャン。91年、大人計画に参加。主なドラマの脚本に『池袋ウエストゲートパーク』『木更津キャッツアイ』(芸術選奨文部科学大臣新人賞)『タイガー&ドラゴン』(ギャラクシー賞テレビ部門大賞)『吾輩は主婦である』『うぬぼれ刑事』(向田邦子賞)『11人もいる』『あまちゃん』(東京ドラマアウォード2013脚本賞)『ごめんね青春!』(芸術選奨文部科学大臣賞他)『ゆとりですがなにか』『監獄のお姫さま』。映画の脚本に『GO』(日本アカデミー賞最優秀脚本賞他)『ピンポン』『アイデン&ティティ』『舞妓Haaaan!!』『謝罪の王様』。作・演出の舞台に『ウーマンリブ』『大江戸りびんぐでっど』『メカロックオペラR2C2〜サイボーグなのでバンドやめます』『高校中パニック!小激突!!』など。舞台『鈍獣』で岸田國士戯曲賞受賞。

宮藤官九郎が大河ドラマを書く!  
もうそれだけで!!

2019年の大河ドラマは、2部構成。第1部は、6月中旬までの24話分。日本人で初めてオリンピックに出場し「日本マラソンの父」と呼ばれる金栗四三の半生を描いた。同時代に生きた落語家の古今亭志ん生の生き様を織り交ぜながら、日本の明治から昭和にかけるスポーツ史をこころで面白く描けるのは、宮藤官九郎しかいないだろう。NHK大河ドラマというスケールの中で、存分に個性を発揮し、“新しい大河”を見せた。

本書は、決定稿と言われる、役者やスタッフに渡される台本をまとめたもの。台本は、撮影現場で適宜変更がなされるため、放送されたものとの違いを楽しむこともできる。今回、決定稿を本にしたいと望んだのは著者本人。それだけ、本作に懸ける思いが強いということだ。

本書を読めば、あの感動がもう一度蘇るだけでなく、宮藤氏が得意とする仕掛けも改めて発見することができる。576頁という大作だが、何度でも読んで楽しめる。

巻頭にはカラー8pでドラマの名場面が、巻末にはオリジナル企画3本が収録されている。

中村勘九郎×綾瀬はるか対談/松尾スズキインタビュー/森山未来インタビュー

「宮藤さんの脚本って、まじめにやるからこそ、面白いものになっていく」—中村勘九郎

「辛いことがあっても、そこを乗り越えようとし、最後には明るさが残る。それは宮藤さんの脚本の魅力」—綾瀬はるか (特別対談より)

この書籍に関する取材、著者インタビューに関する問い合わせ先

宣伝プロモーション部 03-3288-6142 [pr@bunshun.co.jp](mailto:pr@bunshun.co.jp)

(株)文藝春秋 〒102-8008 千代田区紀尾井町3-23